

主要参考文献一覧
 ー共同研究員および近年の著作を中心にー

人名	年月	タイトル	所収・版元	コメント
1 上野暁子	2007	「近世初期における当道座の実態」	『東洋音楽研究』第72号、47-65頁	17世紀の当道座の状況を知るための基本史料をおさえる。
2 海老沢有道	1983	『洋楽伝来史—キリシタン時代から幕末まで—』	日本基督教団出版局	原典に基づいてキリシタン音楽の概要をまとめた基本的文献。
3 加納マリ	1988	「胡弓」	『世界大百科事典』平凡社	
4 加納マリ	2007	Japanese Kokyu	「環太平洋ガンバ大会inHawaii」での研究発表資料 (http://vdgsa.org/PPGG)	胡弓の概説と歴史。英文。
5 加納マリ	2011	「初期の胡弓について—17世紀の文字資料と画像資料から—」	『日本伝統音楽研究』第8号、45-65頁	日本伝統音楽研究センター共同研究における成果の一つ。
6 神戸愉樹美	1998	「キリシタン史料における擦弦楽器」	皆川達夫先生古希記念論文編集委員会編『音楽の宇宙』音楽之友社、239-254頁	キリシタン文書における擦弦楽器名を説明。
7 神戸愉樹美	2010	「胡弓とrabeca—ソフトとしてのキリシタン起源説—」	『日本伝統音楽研究』第7号、37-59頁	日本伝統音楽研究センター共同研究における成果の一つ。
8 蒲生郷昭	2011	『初期三味線の研究』	出版芸術社	初期三味線に関する基本的史料を網羅した研究書。胡弓にもしばしば言及。1986年以降執筆の論文等をまとめた論集。
9 吉川英史・平野健次・久保田敏子	1989	「胡弓楽」	『日本音楽大事典』平凡社、499-500頁	
10 国立音楽大学音楽研究所楽器資料館	1983	『楽器資料集Ⅲ 弓奏弦楽器』		
11 久保田敏子協力	1993	『胡弓教本』	白水社	
12 小島美子	2004	「三味線と胡弓の起源と伝播のルートについて」	『民俗音楽研究』第29号、21-34頁	第一章「胡弓の知識」に、[平野 1976]の要点と図版を手短かに再構成。中近東からアジア・沖縄まで、広い範囲の弓奏楽器を比較する視点。「ヨーロッパ人たちが中世末に持ち込んだのが、キリシタン弾圧を避けるために三味線型に改造したとする説」は誤りとし(30頁)、「西アジアのラバープが南廻りのルートで、日本の胡弓に至った」(31頁)と考察。
13 田辺尚雄	1964	(胡弓の解説)	『日本の楽器』創思社出版、126-133頁	中国・アジアの楽器との関係について楽器学的視点を取り入れたものとしては最初期のものか。田辺の著作の中では最も整理されている。
14 田辺尚雄・藤田俊一・平野健次	1989	「胡弓」	『日本音楽大事典』平凡社、313-314頁	
15 千葉優子	2011	「胡弓再考—近世邦楽史料に関する一考察」	『フェリス女学院大学音楽学部紀要』第11号、43-69頁	
16 徳丸吉彦	1978	「胡弓の諸問題」	『創立五十周年記念論文集』国立音楽大学、311-327頁	世界の弓奏楽器の特徴をまとめた一覧表あり。奏法・形状・史料の諸観点から学術的に概説。
17 野川美穂子	2008	「胡弓楽」	小島美子監修『日本の伝統芸能講座 音楽』淡交社、369-381頁	
18 平野健次監修	1976	『胡弓—日本の擦弦楽器—』(LPレコード、論集)	日本フォノグラム	胡弓に関する基本的な学術書の一つ。各論も充実。平野「監修の意図と内容の構成」「胡弓のいろいろ：序説」、徳丸吉彦「胡弓の源流をたずねて：序説」。
19 皆川達夫	2004	『洋楽渡来考—キリシタン音楽の栄光と挫折—』	日本キリスト教団出版局	「はじめに」(13-28頁)に、16世紀後期キリシタン音楽の概説。
20 ホアン・リス・デ・メディナ	2001	「キリシタン布教における琵琶法師の役割について」	『東京大学史料編纂所研究紀要』第11号(再録：メディナ 2003『イエズス会士とキリシタン布教』、岩田書院)	キリシタン文書に記された盲人琵琶法師への着目。
21 山路興造	2007	三曲万歳の周辺—「胡弓」の歴史に及ぶ—	『万歳 まことにめでとそうらいける』大阪人権博物館、90-95頁	
22 結城了悟	2005	『ロレンソ了斎』	長崎文献社	キリシタン布教に関わった盲人琵琶法師の研究。
23 横田庄一郎	2008	『おわらの恋風 胡弓の謎を追って』	朔北社	